

治療した部位と治療方法

1 問診診察結果（飛行機 全日空）

- (1) エンジンが、4個のうち第一エンジンが無くなっている。家にも無いとのこと。
- (2) 第二・第四エンジンは、翌の下に取付けるための部品が折れていた。無くなったものもある。
- (3) 第三エンジンだけが正常に固定されていた。
- (4) 飛行機の前輪（離陸してからは機内に収まる）のタイヤが無くなっている。
- (5) 電池BOXの端子が錆び（緑青）で導通不良になっていた。
- (6) 電池BOX内に電池は入っていなかった。



図-1 診察前の機体



図-2 エンジンと前輪の状態

2 治療の方法

- (1) 電池BOXの治療から始めた。
銅でも錆び（緑青）ます。錆び（緑青）ると当然抵抗が上がり絶縁物になります。
- 電池BOXは、前側に単三電池4本、後ろ側に単二電池2本用がある。
治療前の写真を撮るのを忘れていた。下の写真は治療後の写真である。



図-3 前側の電池BOX

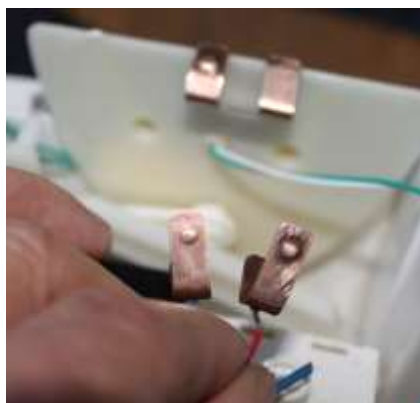


図-4 磨いた単三用の端子



図-5 磨いた単二用の端子

- (2) 次には、前輪のタイヤをミニカーの部品取りで治療した。
- 車の車軸も付いていなかった。ミニカーのタイヤの穴は小さい。軸穴はそれよりも大きい。軸の大きさを決めてから、適当な材料を探した。丸頭のボルトに決めた。固定するためには、ボルトの先のネジ山を利用する。
タイヤの穴の当たるところだけミニグラインダーでネジの山を滑らかにした。
- タイヤの穴の大きさを決めて、穴を太目にして組み込んで、先のネジでうまく固定できた。



図-6 治療後の前輪



図-7 前輪の位置

(3) 次は、いよいよ第一エンジンの作成だ。

- 材料をプラベリアで作ることを考えたが、量が多くいるので他の方法を考えた末、木を削って作ることにした。
- 木の材質も堅い木で作りたいが、四万十市まで行かなければ、自分の木工旋盤は無い。今のところ所用で行く用もない。削りやすい木でも大丈夫だと思い材料を決めた。



図-8 大きさを決める



図-9 概略形を決める



図-10 見本の構造を知る



図-11 形が出来配線道掘込み

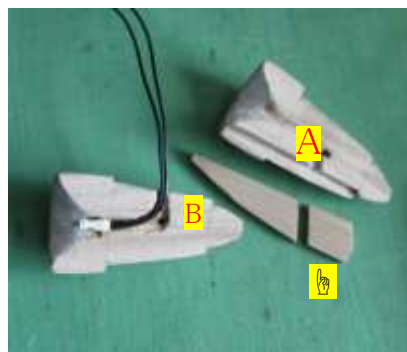


図-12 翌への取付け部品



図-13 完成した第一エンジン



図-14 エンジン頭赤灯



図-15 エンジン四つ揃い第一・第四同色

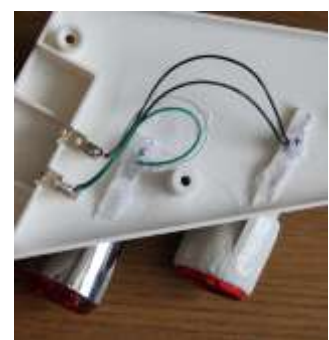


図-16 翌への固定



図-17 完成した側面からの姿



図-18 完成した正面からの姿

3 治療後の結果

(1) 第一エンジンについて、木工旋盤が使えていたらより本物に近づけることが出来たが、今回は致し方ない。

(2) 図-8～図-16 写真の説明

- 図-8・図-9 は堅くない木で、小刀で削った。
- 図-10 は、見本にするため分解した。
- 図-11 は、外観が概ね完成したところで、リード線を通す掘り込みをした。麦球灯の光を放射させるために円錐に削った。
- 図-12 は、エンジンを翌に固定するための部品(竹材で作成)を **A** ・ **B** で挟んで貼り付けた。
- 図-13 は、完成したエンジンに塗装もして、翌に取り付けた状態。
- 図-14 は、エンジンの頭で、ここだけはプラペアで作成した。写真撮るのを忘れていて、実物の写真です。
- 図-15 は、第一・第四エンジンは白色で統一し、第二・第三エンジンは元のままにした。依頼者さんと電話でお話して「どんな色でも結構です。直って嬉しいです」と許可を得ました。
- 図-15 は、第二・第四エンジンの翌への取付け部品が折れていた。ボンドで付けてもすぐ駄目になることが明らかなので、折れた箇所小さな穴をあけて、木ねじを1本ねじ込み、周囲とネジとにグルースティックをグルーガンで覆い固定した。

3 ドクターからのアドバイス

- 試運転は快調しうんてん かいちようです。エンジン音がすごいですね。
- 赤灯も全部点灯します。
- タラップも上下します。後方の物品積み下ろしのドアも開閉します。
- 前輪も降りたり、上がったりします。
- 第一エンジンを手作りしましたが、本物には及びません。無いよりはまし程度です。
- 大事に、大切に、やさしく取り扱いましょう。

お渡し予定日：平成29年04月23日

担当ドクター：谷 春 雄